

「順口溜」から読み解く日中戦争の集合的記憶
愛知大学 日中戦争史研究会

2011年11月26日
石井 弓

■はじめに

本発表は、オーラル・ヒストリーの手法から、如何に戦争の記憶を読み解くかの試みである。フィールド・ワークの対象地域は、中国山西省孟県農村部であり、具体的な事例を通して戦争体験が如何に語られ記憶されてきたかを考察する。

山西省孟県は日中戦争当時、日本軍、共産党軍、国民党軍（閻錫山）が入混じって戦った最前線であった。日本軍はこの地域に拠点を置き周囲を統治すると共に「無人区」（村人の居住を禁止した地域）を構築し、共産党との緩衝地帯とした。一方共産党軍は山中の村々に潜伏し、ゲリラ作戦を展開した。

共和国以降、このような戦争体験は口頭伝達、巡回式の露店映画、そしてテレビによって伝えられた。その中でテレビの普及は比較的遅く、各村（大隊）では1978年から1983年にかけて1台のテレビを購入し、各家庭に普及したのは90年代後半であった。それまで村人たちは露天映画と老人の語りによって戦争を知るしかなく、特に語りは、戦後生まれの村人たちが語られた内容を夢に見るほどに内面化しており、記憶の伝達や共有に影響を与えたことが分かっている。このため本発表はこの語りを論じることを目的とする。

しかし、語り（お喋り）は日常的に消費されるもので、収集・分析が難しい。このため、本研究は「順口溜」（シュンコウリュウ）を取り上げ、村々で歌われる過去を通して村のお喋りの世界を読み解いていく。具体的に孟県でよく知られている「趙家莊惨案」と呼ばれる日本軍による虐殺事件を取り上げる。

■「順口溜」とは

- 1) 何をどう歌うのか（記憶共有の契機）
- 2) 伝播の速度
- 3) 歌われる期間
- 4) 様々な「順口溜」
 - ・ 批判精神×卑猥さ、語りの付随
 - ・ 伝達過程での変化
 - ・ 儒教道德の破壊
 - ・ 多様な批判意識
- 5) 「順口溜」の共有範囲 1

■趙家莊惨案（孟県の中でも広く知られる虐殺事件）

- 1) 趙家莊惨案という事件の記録 1
- 2) 事件の記録 2

3) 聞き取り調査による語り→外来者としての聞き手の立場が問われる

■事件を歌った「順口溜」と変化

1) 「順口溜」の内容

- ・内容：水嶺底→水嶺治→山河湾→趙家莊→石家庄→南羊圈口→羊泉村
- ・作者：劉三和（中農。羊泉村抗日村長、47年土地改革時「大石頭」として隣村に監禁、学習活動をさせられた時にこの歌を作る。）
- ・登場人物：劉根徳（父、水冶底）、劉二荷（娘）、高貴娃（劉二荷夫）、老妹（貴娃父）、肉子（老妹甥、村長）
- ・登場人物（趙家莊）：楊乃生（地主）、楊順生（地主）、李書貴（富農）、老徳本（富農）
- ・胡華念：趙家莊村民。事件当時見張り役を任されていたが、雨と霧のため怠けて歩哨に立たなかった。だから、日本軍が村を包囲したことに気づかず、多くの村民が被害にあった。
- ・劉天喜：他村の人物、一度遊撃隊に参加したが、日本軍に投降し、惨案を手引きした。
- ・李新年：趙家莊村民。遊撃隊に参加しながら、日本軍に投降し、日本軍を手引きして村に入った。戦後民間裁判にて死刑。李の母は生き延びて村で一生を終えた。

2) 「順口溜」の変化

- ・趙家莊の村の中で歌われた部分
 - ・戦後生まれの趙家莊村民が覚えている部分
- 村人の記憶する（気になる）部分のみ残る

3) 共有範囲2

- ・「憶苦思甜」→語りを記憶するかどうかは、「お喋りのコミュニティ」に所属しているかどうかで左右される。

4) 忘却と想起（戦争直後→文革中→80年代→90年代）

- ・記憶は必要によって想起されたり語り直されたりしながら共有されてきた。

■趙家莊村内における「順口溜」に伴う語り

1) 胡華念：悪いやつではない

2) 李新年：彼は犠牲者だ。李の行動は村への報復である。

*なぜそのように語るのか

- ・村にとっての大事件→いつも話がここに至る
- ・モラル（李新年の母）
- ・過疎化の影響
- ・「家譜」と同じ←「歴史」に対する記憶保持の意志（「漢奸」李新年を巡って）

■「集合的記憶」は何か？なぜ記憶されるのか？

- 1) 村では、党の宣伝や歴史の語られ方に巻き込まれない形で、辛い過去が伝えられている。

2) 過去を語る必要性

- ・村独自の過去を持つこと

→村のアイデンティティを持つこと（村を維持する）

→過疎化に直面し、語りの必要性

*戦争の語り方（お喋りの内容）は何層にも分かれている。

*日中戦争は中国農村のコミュニティを破壊したが、一方で、コミュニティを維持するために語られ続けてきた。

*語りは、村人が生きる場であるコミュニティの成り立ちと深く関連するために、強く記憶され共有される。

* * * * *

■「順口溜」資料

① 谷子睡了覺

玉菱子上了吊

綿花戴了孝（*）

豆子放了炮

山葯尿了尿

粟は茎が寝て刈り入れられない

とうもろこしは首をつり

綿花は真っ白に喪に服し

豆は爆竹のように爆ぜ

山芋は小便を垂れ流す

*中国では喪服は白色を着用する

② 進圭社修炮台 漢奸們真高興

修起那炮台圉圉牆 老百姓遭了殃

猪羊肉干粉白菜葱 喫的我們老百姓

老百姓苦上又加苦 老百姓遭了殃

進圭社に砲台を築き 漢奸たちは大喜び

砲台建てて塹を巡らせ 村人たちは災難だ

豚肉羊肉春雨白菜葱 食うは我ら村のもの

苦難に苦難を重ね 村人たちは災難だ

③ 王林、韓国栄、張富漢 勾結的東潘村的陳明蘭

親親的舅舅他不認 的老（*）給了兩耳光

王林、韓国栄、張富漢は東潘村の陳明蘭と結託した

王林は血のつながった叔父も認めずビンタを二発食らわした

*「的老」は孟県北部の方言で頭・脳みその意味。

⑤ 「劉根徳探親」

老来無自功	ずっと手柄も挙げられず
恨天不公平	天の不公平を恨む
家住孟県水嶺底	住処は孟県の水嶺底
恨天恨地恨自己	天地を恨み自分を恨む
我好漢 劉根徳	男一匹劉根徳
缺子無後只生四個閨女	後継ぎ失い娘ばかり四人だけ
大、三、四女子不要提起	長女、三女、四女はともかくも
单提我二閨女	話はわが二女の愛娘
間在羊泉 身配貴娃為妻	羊泉に嫁しては貴娃の妻となる
今天觀見四山晴了	見渡せば、四方の山も今日は晴れ
不免我去羊泉一回	どうしても、羊泉に行くほかあるまい

(＊これまでは台詞、ここから歌が始まる)

水嶺溝 走得他 渾身發汗	水嶺溝、通れば汗がだ一くたく
泉子背 爬得他 兩腿發酸	泉子背、登れば脚はく一たくた
尋来到 水嶺治 擡頭觀看	たどり着いたは水嶺治、仰ぎ見たれば
山頭高 氣候冷 五谷不全	山高く、氣候は寒く、穀物は育たない

又来到 山河湾	続いて来たは、山河湾
只看見 河槽里 有一群綿羊	潤れ川の底に群れをなす羊ばかり

又来到 趙家莊 麻河沿辺	続いて来たは趙家莊麻河 (村の境界)
忽然間想起 大事一 pàn (＊1)	突然思い出したは、大事件
前幾年 趙家莊 人民富強	数年前趙家莊では人々富強
由大家 遍小戸 不缺吃穿	大家から貧乏人まで衣食足る
今日里 趙家莊 実実困難	今となり、趙家莊は苦境の地
楊乃生 楊順生 變成窮漢	楊乃生、楊順生は貧乏人になり
李書貴 老徳本 也是没錢 (＊2)	李書貴、老徳本も金がない
白日里 在街上 胡遊 ge (＊3) 竄	白昼村をぶらつき
夜晚里 爛窑洞 来把身安	夜には壊れかけた窑洞で身体を休める
從不記 哪一年 七月二十三 (＊4)	いつの年やら、7月23日
老天爺 下大雨 霧惡山間	お天道様が大雨降らせ、山は霧に包まれ

(＊1) 方言で「件」の意味。該当する文字なし。

(＊2) 李徳本の呼び名。頭に「老」を付けるのは年配者に対する尊敬の意を示す。

(※3) 方言。発音のみで意味をもたない。

(※4) 陰暦。陽暦では9月10日のこと。

胡華念 放高山 麻痺搗蛋	胡華念、山に見張るも、間抜けな阿呆
死不覺 日本人 包围村辺	日本が村を包围したことに決して気付かない
劉天喜 当漢奸 賽如朝官	劉天喜、漢奸となつては役人に勝るほど
日本人 在後辺 凶手一般	日本人、背後に潜んで下手人と同じ
李新年 (当漢奸) 也説数他熟慣	李新年は村を知り尽くす
這些人 都接応過 工作人員	この連中、誰もが共産党に呼応したことあり
背後辺 有水窖一眼	背後には水窖がひとつ
才把那 男男女女 老老小小	かくして男も女も、老いも若きも
一個一個 扑通扑通地 砍(*) 在里面	ひとりひとり、ポトンポトンと投げ捨てた
甚時候 才把冤案報了	いつになったら冤罪を報いられるのか
打日本 抓漢奸 大報仇冤	日本を倒し漢奸捕まえ大いに仇打ちましょう
(*) 方言。扔(捨てる)の意。	

(※この後の石家莊、南羊圈口の歌は聞きとれていない。ここまでが道程を歌った前半)

*以下は台詞

尋来到 羊泉村 洞門前(※2)	たどり着いたは羊泉村の洞門の前
秋忙節 静悄悄 并無人煙	秋の収穫期なのに静かで人けがない
我老漢 窑婁子 往下 shìkan(※1)	わしは窑婁子(地名)を下り行き
不覺得来到我兒門前	思わず着いたは我が娘の門前
只叫他女婿貴娃開門来(※3)	息子の貴娃を、門を開けよと呼びだす

(※1) 方言。走路(道を歩く)の意。

(※2) 洞門は羊泉村に入る石造りの門のひとつで、今も使われている。

(※3) この部分のみト書きとなっている。

*以下は歌

二閨女正在床上穿針引線	娘はオンドルの上で針仕事のさなか
忽聽見門外有人煙	ふと聞こえる表の気配
說是開開門兩扇	誰かが門を開けろと言っている
原来是老爹爹站在門前	なんとお父が門の前に立っていた

爹爹請到家中
老漢說要到家中
女兒我聽說你離了家了
可分到些甚
(他女婿開始出了頭了)

お父中へお入りよ
彼は邪魔するぞ、と口にする(ト書き)
娘よ、聞いたところじゃ分家したとか
取り分はどれほどじゃ
(娘婿が口をはさみ始めた)

好的東西 人家全要
給我砍下 破家俱
好的土地 人家全要
給我分下 漆樹嘴(*)
(*) 耕地名、羊泉村の中の痩せた畑。村ではそれぞれの畑に名前が付いている

良いものは、義父が皆ほしいと言って
残してくれたは、ボロの家具
良い畑は、義父が皆ほしいと言って
残してくれたは、痩せた漆樹嘴

(老漢就火了)
官凭印虎凭山
婦到人家凭的男子漢
我女兒跟上你受了委屈
丈人(*劉) 面前受了氣
老妹(*貴娃の父の名) 面前見高低

(劉根徳は怒り心頭)
お上が頼るは公文公印、虎が頼るは住処の山
女が嫁入りすれば頼るは夫
娘はお前と一緒にひどい目に遭った
貴娃は面と向かって叱られて
老妹(父親)に向かつて言い争い

(貴娃：氣沖沖的)
一拳頭打得你下陰曹

(貴娃はかっとなって)
一発見舞って地獄へ送るぞ(台詞)

老妹：
一拳頭打得我三魂不在
望不見肉子(*) 在哪辺
我打光棍[口舍]不好
娶下兒妻糟了糕

老妹(貴娃の父)：
殴られてふらふらだ
肉子はいったいどこへやら
(分家して) 一人で暮らして何が悪い
息子に嫁を取ったら、こんなさま

(*) 肉子：当時の村長の呼び名、老妹の甥

老妹哭了
外甥子(=肉子、笑着)：
淡球吧(*) 他能把咋了。

老妹は泣いた
老妹の甥っ子(=肉子、笑いながら)：
たいしたこたねえ。奴があんたをどうできるのさ。

(*) 淡球騰の略：内モンゴル方言で「無所謂」(構わない、どちらでもいい)の意味。